



2018 年 5 月 15 日



SUPER FORMULA レースレポート

2018 SUPER FORMULA シリーズ第 2 戦

悪天候により決勝レースはキャンセル

シリーズ名：2018 全日本スーパーフォーミュラ選手権 シリーズ第 2 戦

大会名：AUTOPOLIS SUPER 2&4 RACE 2018

距離：4.674km×54 周 (252.396km)

予選：5 月 12 日 (土) 晴れ・観衆:3,650 人 (主催者発表)

決勝：5 月 13 日 (日) 雨・観衆:4,750 人 (主催者発表)

2018 年度全日本スーパーフォーミュラ選手権シリーズ第 2 戦が、大分県オートポリス・インターナショナルレーシングコースで開催された。TEAM MUGEN は、#16 山本尚貴、#15 阪口晴南の 2 カー体制でこのレースへ参戦した。阪口は、FIA-F2 選手権出場のためスペイン・バルセロナに向かった福住仁嶺の代役で、国内トップフォーミュラデビュー戦となる。このレースも使用タイヤはソフト&ミディアムの 2 スペック制で、レースウィークには持ち込みユーズド 2 セット、新品ソフト 2 セット、新品ミディアム 2 セット、計 6 セットが使用できる。

●5 月 11 日 (金)

金曜日、ドライコンディションでフリー走行セッションが行われ、#16 山本は 11 周を走って 1 分 28 秒 658 を記録、出走 19 台中ベストタイムとなった。#15 阪口は 20 周を走りタイムは 1 分 30 秒 972 にとどまり、出走 19 台中 19 番手となった。

●5月12日(土)

■フリー走行

#16 山本 6 番手 1 分 27 秒 549

#15 阪口 16 番手 1 分 28 秒 482

晴れ渡った空の下、午前 10 時からフリー走行セッションが始まった。セッションは開始後 7 分で赤旗中断となった。#16 山本はセッション前半のうちに 1 分 28 秒 715 を記録して上位に並ぶと、ピットへ戻って待機に入った。

#15 阪口はマシンの調整を進めながら習熟のため周回を重ね、徐々にラップタイムを縮めていった。セッション終了 10 分前、タイムアタックのシミュレーションのためピットへ一旦帰還、#16 山本とともに持ち込みミディアムタイヤでコースインしタイムアタックを行った。その結果、#16 山本は出走 19 台中 6 番手、#15 阪口は 16 番手となった。

■公式予選

#16 山本 (Q1 : 2 位 1 分 27 秒 123 Q2 : 5 位 1 分 26 秒 292 Q3 : 7 位 1 分 26 秒 714)

#15 阪口 (Q1 : 7 位 1 分 27 秒 393 Q2 : 11 位 1 分 26 秒 964 Q3 : 出走せず)

土曜日午後のオートポリスは快晴に恵まれた。午後 3 時 50 分からノックアウト方式の Q1 セッションが 20 分間の予定で始まった。タイヤの 2 スペック制に伴い、Q1 セッションでは全車ミディアムタイヤを使用、Q2 および Q3 では自由と定められている。

セッションのためにコースがオープンとなると、#16 山本、#15 阪口は相次いでコースイン。2 周をかけてタイヤをウォームアップしタイムアタックに入ると、まず#16 山本が 1 分 27 秒 874 でトップに立った。その直後#15 阪口が 1 分 27 秒 677 を記録してトップとなった。#16 山本、#15 阪口はそのままピットへ帰還したが、1 回目のアタックで 2 人をしのぐ選手は現れず、TEAM MUGEN の 1-2 がモニターに映しだされていた。その後、全車 2 セット目のタイヤでアタックに入り、#16 は 2 位、#15 は 7 位で何れも Q2 進出を果たした。

7 分間の Q2 セッションは午後 4 時 20 分に始まった。各車ソフトタイヤを装着し待機、セッション残り 5 分で#15 阪口、残り 4 分で#16 山本がコースインして 1 周でタイヤをウォームアップ、タイムアタックにかかった。#15 阪口は 1 分 26 秒 964 でその時点で 5 番手、#16 山本は 1 分 26 秒 292 でその時点で 2 番手につけた。しかしその後でタイムアタックをする選手によりタイムが更新され、#16 山本は 2 番手を守って Q3 に進出したが、#15 阪口は 11 番手にまで順位を下げて Q2 突破はならなかった。

午後4時40分、Q3が始まった。#16山本はピットで待機、他のQ3出走車両がコースインしタイヤをウォームアップし終えるタイミングでコースインした。そこからタイヤをウォームアップ、最後にタイムアタックにかかったがタイムは山本が思った以上には伸びず1分26秒714に終わってスターティンググリッドは7番手と決まった。#15阪口は11番手であった。

● 5月13日(日)

■フリー走行

オートポリス地方は前夜から雨になり、夜が明けて雨は小降りになったものの今度は霧が発生、視界不良のためタイムスケジュールが変更されて朝のフリー走行は延期された後、キャンセルとなった。

■決勝

決勝レースに先駆けて、午後1時20分から20分の予定でウォームアップ走行セッションが設けられた。細かい雨が降り、コースはウェット。#15阪口、#16山本ともレインタイヤを装着してコースインした。28分、赤旗でセッションは中断。この時点で#16山本は3周走り1分40秒543で2番手、#15阪口は1分42秒093で8番手につけていた。しかしこの頃から雨が徐々に強まり、セッションはこのまま打ち切りとなった。

雨はさらに強まり、霧も発生したためスタートは順延され、協議の結果天候回復は望めないとして決勝レースはキャンセルと決まった。

■山本尚貴選手コメント

「持ち込みからいい感触で走り始めました。Q1までは思い通りのタイムが出ましたが、ソフトタイヤを使ったQ2、Q3は、自分では何もミスなく走ったつもりでしたがなぜかタイムが伸びませんでした。自分でも意外な結果でした。何か原因があると思うので、チームと分析して第3戦に備えます。決勝は、楽しみにしていたファンには申し訳ありませんが、レースができるコンディションではありませんでした。次のレースではきっと良いレースをしますので、応援してください」

■阪口晴南選手コメント

「今回、トップフォーミュラに乗るチャンスを与えてくれたチームに感謝しています。周囲はみんなトップドライバーで、経験の少ないぼくが走ったらきっと厳しいことになるだろうと緊張しましたが、自分を信じて焦らずに走ったら公式予選で自分でもびっくりするくらいうまく走れました。もともと良い状態にあるクルマでしたが、チームがぼくに合わせてさらに良くしてくれたおかげです。ただ、Q2では路面も変化したこともありぼくもソフトタイヤの経験があまりなかったので戸惑ってしまいました」

■手塚長孝監督コメント

「金曜日から土曜日のフリー走行は持ち込みセットの確認と阪口選手のレースへの習熟を意識した内容となりました。Q1 を快調に突破した山本でしたが、Q2、Q3 では思いのほかタイムが出なかった様です。もしかしたら、前日の好調なセッション結果でちょっとした隙が生まれたのかもしれません。ともかく、次のレースに向けての解析はしっかりと行いたいです。Q1 で阪口選手が新品ミディアムタイヤを履き奇跡的なタイムを出した際は、喜びもさることながら非常に驚かされました。新品ソフトタイヤでの経験が少なかったこともあり、コースインして直ぐにアタックしなければならない状況にさすがに戸惑っていたようです。それでも当初の目標であったQ1 を 突破したのだから上出来だと思います。楽しみなドライバーです。決勝はウェット用のセットをして準備万端だったのですが、雨量が多く、安全を考慮すると走るコンディションでは無くなってしまいました。レースを楽しみにしていたファンの皆様に決勝での走行をお見せする事が出来ず 残念です。次回のレースも開幕からの良い流れに乗って戦い、結果を出したいです。期待してください」

「レース写真は下記サイトにてご覧ください。」

ダウンロードも可能です。

<http://www.mugen-power.com/media>

ログイン ID : partner

パスワード : mugen

TEAM MUGEN スーパーフォーミュラサイト

<http://www.mugen-power.com/motorsports/sf2018/>

無限フェイスブック

<https://www.facebook.com/mugen1973/>





本件についてのお問い合わせ先
株式会社 M-TEC 管理部広報課 pr@mugen-power.com 担当: 渡辺
埼玉県朝霞市膝折町2-15-11 TEL:048-462-3151 FAX:048-462-3155



M-TEC Co.,Ltd.
2-15-11 Hizaori-cho, Asaka City, Saitama 351-8586 JAPAN
Tel.048(462)3131 Fax.048(462)3121